

災害対応図上訓練～避難所生活困難者の分類とその支援～を実施しました！

日時：2019年10月10日（木）13:30～15:30
場所：和歌山県岩出保健所那珂振興局3階大会議室（和歌山県岩出市高塚209）
参加者：岩出市（保健師、危機管理系職員）、紀の川市（保健師、危機管理系職員）
および和歌山県保健師（計41名）
ファシリテーター：建築学科生9名＋大学院生1名＋教員1名（計11名）

今回の見どころ

災害対応図上訓練とは、地震発生時を想像しながら自分たちのまちに起こり得る家屋崩壊などの危険について考える訓練です。また、避難所生活困難者とは、避難所生活を送るにあたり問題がある人の事をいいます。今回の研修では大地震を想定し、岩出市・紀の川市に起こりうる被害の把握を行います。また、保健師が避難所に出向き、避難所アセスメント（避難所の状況を評価すること）を行うことになったと想定し、演習を行います。私は説明役を担っており、保健師が実際の被災時をイメージしやすくなるように、事前の発表練習を繰り返しました。さて、練習の成果は発揮されたのでしょうか・・・。

プログラム実施風景



事前説明の様子です。声のトーンを落とし被害状況の深刻さを表すことで、参加者が被災現場を想像しやすい様にしました。



震度7の地震が起こり岩出市・紀の川市は大きな被害を受けました。演習がスタートします！



被害把握では、「看板が落ちてきそう」「道路が混雑しそう」などの意見が飛び交い、危険な場所を地図内に記入していました。



避難所アセスメントでは、避難所内に嘔吐・発熱者が見られたため、各自への適切な対応について相談していました。



「トイレと炊き出し場が近い」「ペットが放置されている」など、避難所内外の問題点の改善案について話し合っています。



振り返りでは「日頃から被害について考えるべき」「短時間で状況を判断するのが難しい」などの意見がでました。

プログラムの実施結果

本番の説明では、緊張によってとても早口になってしまい、上手く発表することが出来ませんでした。しかし、演習が始まると、参加者はたくさんの意見を交換し相談していました。特に、保健師は、避難所内の避難者の症状から、すぐに避難者への対応を決めていきました。私も事前に避難者アセスメントを行ったのですが、病名を見ただけでは具体的な症状が分からなかったのが、専門職の人の凄さを感じました。今回はそんな保健師の方々に助けられたおかげで、研修はうまく進んだと思います。しかし、私の発表がしっかりしていたら、もっとより良い研修内容になったのではないかと想像できました。よって、このような機会がもう一度あるとしたら、参加者に寄り添いつつ一緒に研修を作り上げたいです。その為に、「保健師の仕事内容についてあらかじめ調べることで理解を深めること」、また、「本番のイメージを忘れず事前練習の成果を発揮すること」を実行できる様にしたいと思います。

今回のプログラム実施にあたり、プログラムに参加して頂いた参加者の皆様、サポートして頂いた先生方と先輩方に心より感謝申し上げます。